

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

【6.1.1】 【6.1.2】 【6.1.3】 物理学科では、実験科目の適切な履修が行われるよう、2006年度カリキュラムにおいて実験科目を選択必修化した。また、情報科学科で演習科目の選択に偏りが生じる問題は、演習内容の学生への提示方法や履修指導を改善することで対応し、2005年度以降この偏りは解消している。

【6.1.4】 近年、編入学試験は実施していない。単位認定については入学前に修得した単位を認定した実績はあるが、数は非常に少ない。緊急性はないが、手続きの細則に関しては今後の検討課題である。

【6.1.5】 現時点对応は完了しており、今後も現状と同程度の専任比率を維持することに努める。

【6.1.8】 現時点对応は完了していると考える。

なお、カリキュラムは常設の「カリキュラムWG」を1ヶ月に1回の頻度で開催し、点検を行っている。2002年度に設置したカリキュラムは見直しを経て2006年度に改定を行った。各学科毎の点検結果を踏まえた専門科目のカリキュラム改定を行うとともに、学部共通の事項として、1) 理工学部他学科の専門教育科目を自由選択科目として履修できるようにした、2) 生命科学科と情報科学科における総合教育科目の定義を見直した、の2点により「自然科学を核とした幅広い教養を身につけられる」カリキュラム編成となるように改定を行った。

また、「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」の助成のもとで英語教育の強化を推進している。強化の一環として、生命科学科では、2006年度入学生より高年次での「科学技術英語」を必修化した。教科書を作成する等の成果を上げつつあるところである。現在、2009年度の学部再編に伴うカリキュラム設計・改定の検討を始めたところで、この議論を通じてさらなるカリキュラムの充実を図っていく予定である。

学内第三者評価

高い専任比率の割合を目標に掲げ、それを達成していることは、本学部の特長として高く評価できる。カリキュラムWGを1ヶ月に1回の高い頻度で開催し、カリキュラムの持続的な見直しを進めており、きめ細かい履修指導などの特徴長も含めて評価できる。